

(1) 園芸の生産拡大

資料 4

1 実績

H22年度から取り組んできた1億円産地づくりでは、面積・販売額ともに増加その成果と課題を踏まえ、今年度から新たに、「稼げる経営体・産地づくり」を目指し、園芸作物の生産力の拡大・強化に向けた取組みを展開。

- 成果：機械化体系が確立した品目（たまねぎ、ニンジンなど）を中心に生産拡大
- 課題：収量や品質が安定しないことや、収穫作業等の労働力が確保できず、規模拡大が進まない



図 1 億円産地づくりの面積、販売額の推移

2 R4年度の取組み、進捗

(1) 稼げる！園芸産地プランの策定支援

- 現在173産地が策定予定（R8策定目標200産地）

(2) 水田での拡大品目の重点化

- リーディング経営体の育成のための重点指導等
- R4植付けのたまねぎ面積が約13ha拡大

(3) 農業支援サービスを活用した労働力確保支援

- 富山県農業支援サービス活用協議会設立（5/26）
- 6/20～8/20の期間で、たまねぎ、加工用トマト、青ねぎの収穫作業等を実証



(2)-1 人材の確保・育成（新規就農、研修、産地での受け入れ）

1 実績（新規就農者の育成状況）

	H29	H30	R1	R2	R3
新規就農者数	69	63	63	80	61
うち、法人就農(従業員)	52	47	46	52	40
うち、自営就農	17	16	17	28	21
うち、主穀作等(複合含む)	55	49	49	53	41
うち、園芸	10	9	12	23	14
【参考】法人就農の割合	75%	75%	73%	65%	66%
【参考】園芸の割合	14%	14%	19%	29%	23%

- ・新規就農者は、近年、年間60人から80人で推移
⇒ 年間120人以上を目指して取組強化が必要
- ・就農形態別では、法人就農が多いが、近年、その割合は減少傾向
⇒ 自営就農希望者が増加
- ・経営内容別では、近年、園芸志向者の割合が増加傾向

2 R4年度の取組み、進捗

(1) とやま農業未来カレッジにおける通年研修の実施

第8期生として15名が県内での就農に向けた研修を実施中

(2) 園芸産地が主体となった就農希望者の受け入れ体制づくり（モデル事業の実施）

県内の果樹産地をモデル地域として選定し、就農希望者の受入プログラムの策定・実践を支援（3年間）

(3) 兼業農家の農地の継承・活用対策

兼業農家の子弟向けセミナーの開催（R5.1月22日）

南砺市の干柿産地において、県外大学と連携した産地のPR強化や関係人口の拡大に向けた取り組みを開始（その他、1産地と調整中）

3 今後の方向性

- ・農業未来カレッジにおいて、自営就農希望者向けの実践研修（2年目コースの設置）検討
- ・富山大学において、農業経済学に関する寄附講義の実施
- ・園芸産地の就農希望者の受け入れ体制の整備
- ・農繁期の農作業・農村滞在希望者と受入地域のマッチングなど多様な人材の活用支援

(2)-2 人材の確保・育成（「農業教育と研修に関するあり方検討会」）

1 趣旨

農業就業人口の減少が見込まれる中、次代を担う若い農業者を確保・育成していくために必要となる農業教育・研修の内容や支援方策等について検討を実施

委員：14名（有識者、農業経営者、農業関係団体、市町（南砺市、朝日町）、教育機関）

委員長：酒井富山大学名誉教授



第1回検討会の様子（R4.6.27）

2 内容

（1）第1回検討会（R4.6.27）

- ① 県内の農業教育及び研修等を巡る情勢の報告
- ② 農業研修等に関するニーズ調査の内容・実施方法について

（2）農業研修等に関するニーズ調査の実施（R4.8月～9月）

農業高校生や青年農業者、農業法人代表者、園芸産地等に対して農業研修や園芸人材の確保等に関するアンケート調査を実施

（3）第2回検討会（R4.10.24）

- ① 農業研修等のニーズ調査の結果報告
- ② ニーズ調査の結果等を踏まえた今後の取り組みについて

○ニーズ調査の結果等を踏まえた今後の取り組み（抜粋）

項目	自営就農希望者向けの研修の強化	既農者向け研修	地域の受け入れ体制の整備、マッチングの促進	農業高校生の就農意識を高める取組み
実施内容	基礎に加え実践的な知識・技術を習得するための研修の実施（2年目コースの設置）	園芸作物の栽培経験のない農業法人従業員等を対象とした短期研修	就農希望者の受け入れや支援を希望する産地等を事前登録・リスト化	農業高校生だけでなく保護者も含めた就農相談会の開催 など

※第3回検討会はR5.2月下旬に開催し、今年度の検討結果のとりまとめ予定

○ニーズ調査の対象及び回答状況

	対象	配布数	回答数	回収率
就農予定者	①農業高校生	129	127	98.4%
近年就農者等	②青年農業者（カレッジ生含む）	73	21	28.8%
	③法人従業員	600	96	16.0%
就農者受入側	④農業法人	600	122	20.3%
	⑤集落営農組織（協業経営）	126	46	36.5%
	⑥園芸産地	102	62	60.8%
計		1,630	474	29.1%

(3) 持続可能な農業生産

(有機農業の推進、飼料の自給率向上、プラスチックフリー肥料)

1 R3年度実績

- (1) 有機農業の取組面積・・・R2：219ha → R3：216ha
- (2) 飼料の自給率・・・飼料自給率：24%
- (3) プラスチックフリー肥料の実用化・・・農業研究所でのデータ収集

2 R4年度 of 取組み、進捗

(1) 有機農業の推進

- ・有機農業産地づくり支援（南砺市）
- ・指導員を対象にした有機JAS研修会の開催
- ・とやま有機農業生産推進大会の開催(11/17)
- ・有機栽培技術事例集の作成・配布（400部）
- ・有機JAS認証取得支援

(2) 飼料の自給率向上

- ・「とやま和牛」への酒粕給与
- ・子実トウモロコシの栽培、指導
- ・畜産クラスター事業を活用した機械導入支援

(3) プラスチックフリー肥料

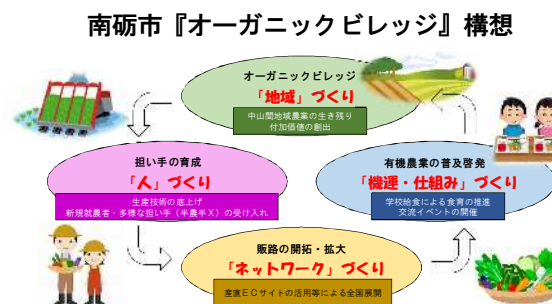
- ・水稻のプラスチックフリー配合肥料（SCU+Jコート）の実証試験の実施（県内4箇所）
- ・大麦のプラスチックフリー肥料（SCU）の実証試験の実施（県内12協議会、6月補正）

3 今後の方向性

- ・有機産地づくり支援（ハード・ソフト）
- ・有機農業者・消費者等のネットワークづくり
- ・土壌診断に基づく施肥や緑肥作物の活用推進
- ・耕畜連携の強化による循環型農業の取組支援



指導員向け有機JAS制度研修



有機農業産地づくり（南砺市）

(4) 農林水産物等の輸出拡大

1 R3年度の輸出実績

・前年度比4.6億円 (38.3%) 増

品目	R2	R3	R8(目標)	概況
コメ・コメ加工品	2.7	2.6	10	コメが前年同等、加工品で減となり、全体としてやや減
日本酒等	3.3	4.9	65	日本酒等では、輸出量が増加(R2:190kℓ⇒R3:361kℓ)
水産物・水産加工品	4.3	4.8	15	水産物でやや減少、水産加工品が増加、全体としてやや増
重点品目以外の品目	1.7	4.3	30	鶏卵など新規品目のほか、発酵食品、干柿で増加
合計 (取組事業者数)	12.0 (54者)	16.6 (61者)	120 (100者)	(単位:億円)



2 R4年度の主な進捗

(1) とやま輸出コミュニティ (6/22発足、会員数139者 (11/8現在))

・セミナーの開催や各プロジェクトへの参加事業者の募集などを実施

(2) リーディングプロジェクト

プロジェクト名	リーダー企業(主な商品)	主な内容
①香港 「冷凍輸送」プロジェクト	横山冷蔵(株) (アイスクリーム)	伏木富山港から香港の既存の冷凍物流を活用して、小ロットの商品を混載して輸出
②台湾 「とやま和カフェ」プロジェクト	日の出屋製菓産業(株) (米菓)	台湾に期間限定で「とやま和カフェ」を出店。県産スイーツ等の提供や観光情報の発信など
③フランス 「富山の酒」魅力発信プロジェクト	県酒造組合 (日本酒)	リヨンの日本食イベント「WASHOKU」(R5.2~)等で富山の酒等の魅力を発信

(3) 地域商社

・地域商社を中心として県産品をまとめて輸出する輸出プラットフォームを構築

事業者名	主なターゲット国	想定商品
(有)グリーンパワーなのはな	米、英、仏、独、加	コメ・コメ加工品、調味料 等
(株)ジェック経営コンサルタント	台湾、中国、タイ	麺類、調味料、日本酒 等
(株)横山商会	香港、欧州	日本酒 等



(5) - 1 米消費拡大 ～スポメシでお米の良さを紹介～

○米食を中心とした食生活の良さの普及・啓発

内容

1 スポメシ [スポーツ選手のご飯]

- ・スポーツと絡め、エビデンスに基づき、“米が身体に良い、脳が活性化される”等をテレビ番組や動画で紹介（専門家による監修）

➤ 県内プロスポーツチームがスポメシに出演

- ①富山グラウジーズ、②カターレ富山、③黒部アクアフェアリーズ、④富山サンダーバーズ

※県内出身選手が登場し、食事のこだわりや気を付けていること等を紹介、専門家のお勧めレシピも紹介

2 ご飯を食べる運動（富山県米消費拡大推進協議会）

- ・スポーツに取り組む子どもを対象におにぎりを配布
- ・「職場で“ご飯”ランチ」を県職員が率先して実施



スポメシレシピ紹介（HPで掲載）



スポーツに取り組む子どもにおにぎりを食べてもらう運動



職場で“ご飯”ランチ



食の王国秋フェスタにて“スポメシ”のPR

(5) - 2 米消費拡大 ～米粉の活用促進～



とやま米粉のロゴ

○食品加工業者の商品開発の後押しと開発商品の拡大

1 米粉の活用方法を学ぶ研修会



研修会の様子（横田副知事挨拶）

- ・参加者70名
飲食店、菓子店、女性起業家、
食品製造会社ほか

2 米粉商品によるコンテスト



食の王国秋フェスタにおける米粉ブース



米粉専門家、youtuber、栄養士会、JAグループ代表
による審査

3 県内小売店でのPR、販売（予定）（事例）コンテスト出品商品（開発商品）



米粉のブランマンジェ



酒粕エゴマ・ガトーショコラ



りんごとアールグレイクリーム
の米粉のシフォンケーキ

（参考）県内の米粉用米の作付面積と生産量の推移

年度		H21	H23	H25	H27	H29	H30	R元	R2	R3
富山県	作付面積 (ha)	7	204	121	128	115	78	86	120	178
	生産量 (t)	41	1,111	662	696	634	429	473	657	979
全国	作付面積 (ha)	2,401	7,324	3,965	4,245	5,307	5,295	5,318	6,346	7,632
	生産量 (t)	13,041	40,311	21,071	22,925	28,331	28,065	28,166	33,361	40,361